

皆さん、こんにちは。校長の石丸です。この度の進級、誠におめでとうございます。
新たな旅路に立つ皆さんに心より祝福申し上げます。

新年度に入り、新しいクラス、新しい先生、新しい科目と時間割等、様々なことが一気に変わります。しばらくの間、少し疲労がかさむかもしれません。余裕のある人はスタートダッシュしてよいのですが、少し雰囲気馴染めないと感じたら、「そのうち何とかなる」と楽に構え、慌てずゆっくりお過ごしください。

先日、印象的な出来事がありましたので、紹介させていただきます。

とあるカフェでの出来事です。電車の待ち時間が八分ほどあったため、飲み物を購入しようとカフェに入りました。私は「黒糖ラテ、M サイズ、持ち帰り」と注文、黒糖ラテができるまで携帯電話を見ながら待っていました。

「お待たせしました」という店舗クルーの声とともに差し出されたのは、店内用のマグカップ。「持ち帰りと言ったはずだが」と釈然としない思いを抱きつつも、「持ち帰りです」と伝え、作り直されるのを待ちました。数分後、「申し訳ございませんでした」という声とともに、注文通りの紙カップが出てきました。しかし、よく見るとどうもおかしい。今度はサイズが違うようです。「すみません、これはMですか」と尋ねると、店舗クルーは「Sですね。Mでしたか」と返答。私は、少し不機嫌な思いに駆られながらも、表面上は平静を装い、客としてのマナーを保ちました。ここに来て、さすがの私も店舗クルーの仕事ぶりに不安を感じ、携帯電話を見るのをやめ、ドリンクを用意するクルーの動きを観察することにしました。すると、どう見ても黒糖ラテを作っているようには見えません。案の定、次に出てきたのはホットコーヒーでした。この時私は、自分の言葉が相手に正しく伝わらない歯がゆさ、もどかしさを強く感じるとともに、苛立ちが募りました。

私は意を決し、重要な三つの言葉を一言一句、はっきりと「黒糖ラテ」、「M サイズ」、「持ち帰り」、と、念を押すように少し大げさに伝えました。その後、ようやく、自分が求めていた黒糖ラテを手にすることができましたが、気がつけば予定していた電車はすでに発車しており、次の電車を待つこととなってしまいました。まさに踏んだり蹴ったりな一幕でした。

この出来事を通して、私は学ぶべき点を二つ考えました。

一つ目は、「自分の伝えたいことは、はっきりと相手に聞こえる声で伝えなければならない」ということです。近頃、年齢を重ねたせいか、若い頃のような張りのある声が出せなくなっていると感じます。家庭でも、妻から何かを尋ねられた際、私がぼそぼそと返答してしまい、「もっとはっきり話して」と注意されることが少なくありません。私に限らず、社会生活においては、要点を簡潔にまとめ、相手に聞き取れる口調で話すことが求められます。今回の事例では、それが十分にできていなかったため、何一つ正しく伝わりませんでした。初めから明確に聞き取れる声で伝えていれば、店舗クルーも無駄な業務をすることなく、また私も予定していた電車にも乗れたはずです。私は、伝わると思っていた声の調子で話したことは、相手にとってはまったくそうではなかったのだ、と実感しました。

二つ目は、「紛らわしい言葉を選ばないこと」です。私は飲み物のサイズを「M サイズ」と伝えましたが、ドリンクサイズを表すS・M・Lはいずれも発音が1秒にも満たないほど短く、かつ、言葉の頭が共通の「エ」という音で始まります。聞き手は2文字目の

発音で判断しなければならず、聞き間違いが生じやすいのです。「エス」「エム」「エル」と強調する方法もありますが、それでは相手を軽んじているように受け取られるかもしれません。そこで、「スモール」「ミディアム」「ラージ」と単語として伝えることが、相手の立場に立った、円満なコミュニケーションにつながるのだと気づきました。

人間が使用する言葉は実に複雑です。母音や子音が組み合わさって音素となり、音素が連なって単語になり、単語が文章となり、文章が論理的思考を形づくります。こうしてようやく、身体的表現に頼らずとも、思考や考えを相手に伝えることが可能になります。さらに、国を越えれば、発音や文法が異なり、意思疎通は一層難しくなります。

更に、会話をする相手の知識や経験の差によっても、言葉は伝わらなくなることがあります。相手が当然知っていると思って使った言葉を相手が知らず、話が通じないことや、自分が誤った知識を持っていたために、話が噛み合わない場合などの事例が当てはまります。これは学校現場でも日常的に起こります。

私が中学一年生の担任をしていた頃、生徒から「先生の言っている言葉が難しくて、何を言っているのかわからない」と言われたことがあります。また旅行先で、「どちらに住んでいますか?」と尋ねられた際、「名古屋です」と答えたところ、「名古屋ってどこですか?」と返されたことがあります。この時は、さすがに返す言葉を見失うほどの衝撃を受けました。この時私は、コミュニケーションをとる際は、相手の知的発達段階、能力に応じた言葉を選ばなければならないと強く感じました。

私たちは普段、当たり前のように言葉を使っていますが、実は言葉とは極めて繊細で難しいものです。カフェでの事例のように、声の大きさや活舌のまずさから伝わらないケース、知識や経験の違いによって伝わらなくなるケースなど、考えや思いはちょっとしたことで人から人に伝わらなくなります。

私は、今回のカフェでの出来事から、言葉に対してより一層真摯に向き合い、もっと多くの言葉に出会うことで、相手の気持ちや考えを汲み取る術、そして自分の思いを円滑に伝える術を磨きたいと感じるようになりました。皆さんも社会に出ると、いつの日か言葉の重要性に気が付く日が来ると思います。今は目の前の学業や部活動をこなすことで精いっぱいかもしれませんが、ぜひ、コミュニケーション力を上達させる土台作りとして、そして人間力を磨くため、社会を円滑に生き抜くためにも、言葉による伝える力を磨いてほしいと思います。

改めて、進級おめでとうございます。

三年生の皆さん、今日から皆さんは最上級生です。最優先課題は進路の実現です。共通テストまで約十か月、指定校校内選考まで約六か月。人生という長い道のりを、どのように歩むのか。その選択は皆さん自身に委ねられています。「立場は人を育てる」という言葉の通り、最後の一年という立場に立った今こそ、自分に革命を起こす覚悟で学業に臨んでください。後悔先に立たずです。

二年生の皆さん、台湾への修学旅行を控えています。台湾では、私たちは外国人です。「郷に入れば郷に従え」の言葉の通り、日本の文化を伝えるとともに、台湾の文化や風習を尊重し、多くを学んできてください。戸惑いも含めて、一期一会の貴重な経験となるはずです。また、科目選択も控えています。これは将来に直結する重要な選択です。自分は何を学びたいのか、どのような道を歩みたいのか、日頃から真剣に考えてください。先手

必勝の意識を持ち、準備を怠らないでください。

最後に、この一年、生徒一人一人が新たな立場のもとで自らを律し、さらなる高みを目指して成長していくことを心より願っています。春の訪れとともに、皆さんの可能性が大きく芽吹く一年となることを祈り、式辞といたします。

東京都立保谷高等学校長

石丸昌延